

大 阪 市 の 結 果 概 要

大阪市教育局

■ 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、大阪市教育局基本計画に基づく教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

・主として「知識」に関する問題(A問題) ・主として「活用」に関する問題(B問題)

※理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題。

- (2) 質問紙調査

・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日時 平成30年4月17日(火)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

・小学校 290校、18,175人・中学校 131校、16,341人

■ 教科に関する調査結果の概要

<http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/factsheet/18prefecture-City/513osaka/index.html>

- ・平均正答率は、前回の調査結果と比べ、小学校算数A・B問題、中学校理科においては全国との差が小さくなっています。他の教科は、小学校、中学校とも「対全国比」がほぼ横ばいです。
- ・平均無解答率は、小学校国語A問題、算数A・B問題において全国に比べて低く、中学校国語B問題、数学A・B問題においても前回の調査より差が小さくなっています。

平均正答率《大阪市と全国》

※ 全国平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

国語・算数・数学		H28			H29			H30		
		大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小国	A問題	70	72.9	0.96	71	74.8	0.95	66	70.7	0.93
	B問題	55	57.8	0.95	53	57.5	0.92	51	54.7	0.93
小算	A問題	75	77.6	0.97	75	78.6	0.95	62	63.5	0.98
	B問題	45	47.2	0.95	42	45.9	0.92	49	51.5	0.95
中国	A問題	73	75.6	0.97	74	77.4	0.96	74	76.1	0.97
	B問題	62	66.5	0.93	68	72.2	0.94	58	61.2	0.95
中数	A問題	60	62.2	0.96	62	64.6	0.96	63	66.1	0.95
	B問題	42	44.1	0.95	45	48.1	0.94	44	46.9	0.94

理科		H27			H30		
		大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小理		56	60.8	0.92	55	60.3	0.91
中理		49	53.0	0.92	63	66.1	0.95

平均無解答率《大阪市と全国》

国語・算数・数学		H28			H29			H30		
		大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
小国	A問題	5.4	5.3	0.1	3.0	2.8	0.2	3.4	3.5	-0.1
	B問題	4.8	4.6	0.2	4.6	4.3	0.3	4.1	3.8	0.3
小算	A問題	2.0	1.8	0.2	1.8	1.6	0.2	2.0	2.5	-0.5
	B問題	7.0	7.4	-0.4	6.2	6.4	-0.2	7.4	7.9	-0.5
中国	A問題	2.5	2.0	0.5	2.9	2.4	0.5	3.6	3.1	0.5
	B問題	5.7	4.4	1.3	5.1	3.8	1.3	4.1	3.0	1.1
中数	A問題	7.2	6.3	0.9	7.5	6.3	1.2	3.7	3.3	0.4
	B問題	16.9	14.7	2.2	14.5	11.7	2.8	14.9	12.6	2.3

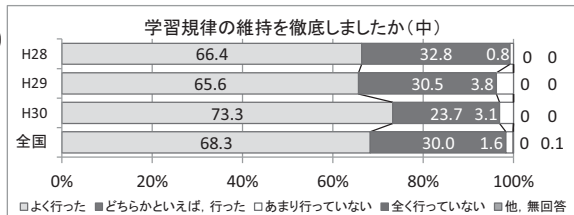
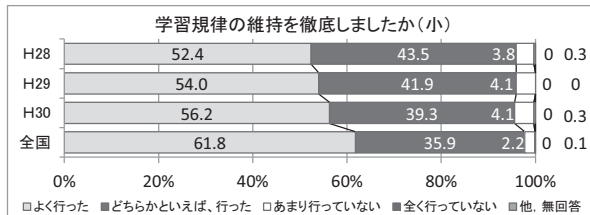
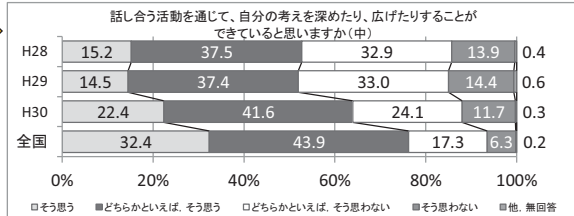
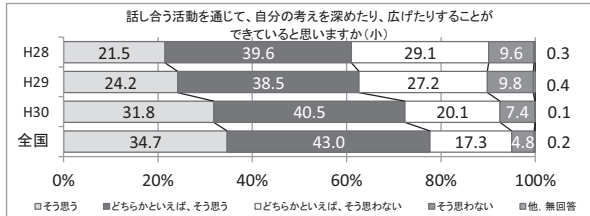
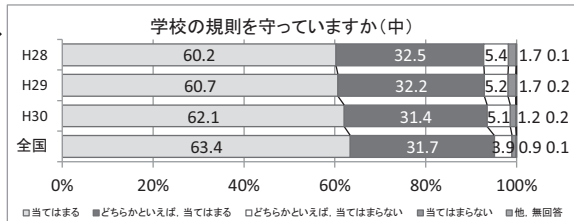
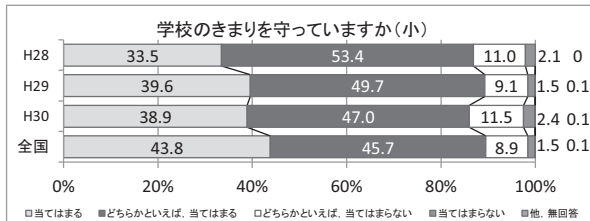
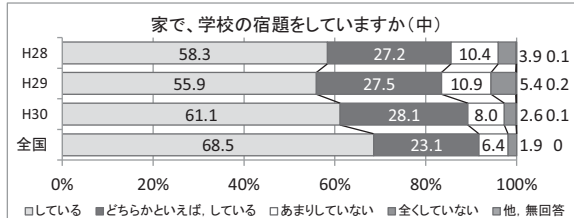
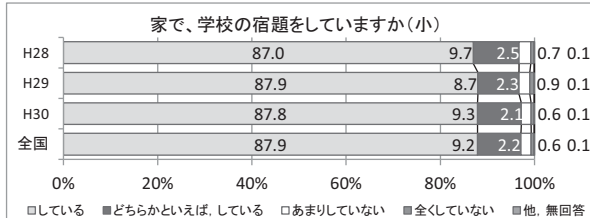
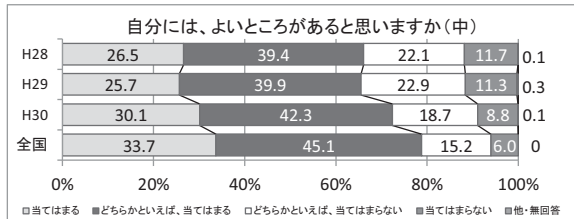
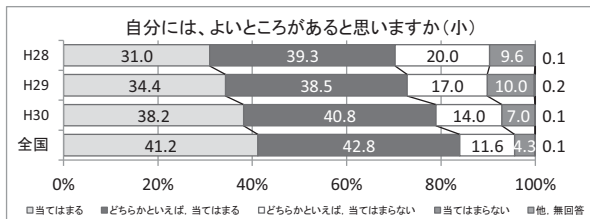
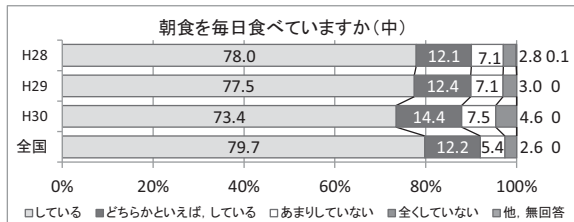
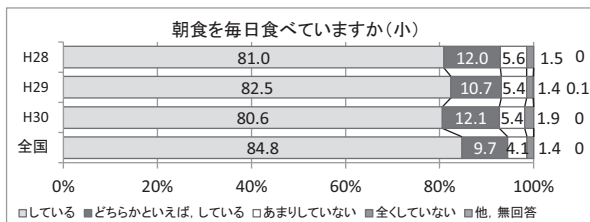
理科		H27			H30		
		大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
小理		3.4	3.2	0.2	1.2	1.2	0.0
中理		7.6	7.0	0.6	5.9	5.0	0.9



■ 質問紙調査結果の概要

<http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/factsheet/18prefecture-City/513.osaka/index.html>

- 「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校は大きな変化は見られませんが、中学校ではやや減少しています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに増加しています。
- 「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校、中学校とも29年度と比べて増加し、小学校では全国とほぼ同程度になっています。
- 「学校のきまり（規則）を守っていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、29年度と比べ、小学校はやや減少していますが、中学校では大きな変化は見られません。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに増加しています。
- 「学習規律の維持を徹底しましたか」という質問に対して「よく行った」と回答した学校の割合は、29年度と比べ、小学校、中学校ともに増加しており、特に中学校は全国を上回っています。



※国が公表している大阪市のデータを参照しています。

小学校国語

A問題 平均正答率:66%(全国:70.7%) 平均無解答率:3.4%(全国:3.5%)

B問題 平均正答率:51%(全国:54.7%) 平均無解答率:4.1%(全国:3.8%)

分類・区分集計結果

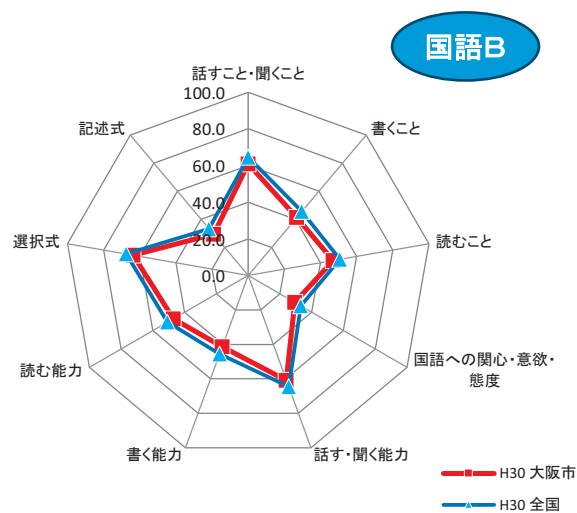
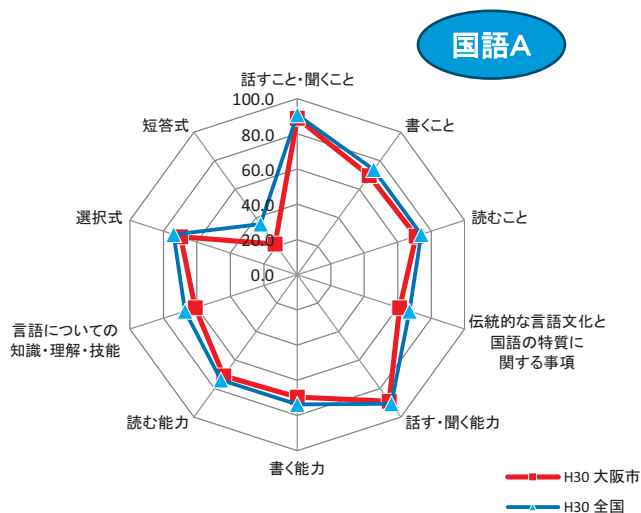
分類	区分	A問題(全12問)			B問題(全8問)		
		H30 対象 設問数	平均正答率(%)		H30 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H30 大阪市	H30 全国		H30 大阪市	H30 全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	88.9	90.8	3	60.9	64.6
	書くこと	1	69.6	73.8	5	41.3	45.6
	読むこと	2	71.0	74.0	2	47.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	61.1	67.0	0	—	—
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	3	29.3	33.2
	話す・聞く能力	1	88.9	90.8	3	60.9	64.6
	書く能力	1	69.6	73.8	5	41.3	45.6
	読む能力	2	71.0	74.0	2	47.1	50.8
	言語についての知識・理解・技能	8	61.1	67.0	0	—	—
	問題形式						
問題形式	選択式	11	69.8	73.9	5	63.7	67.6
	短答式	1	21.5	35.5	0	—	—
	記述式	0	—	—	3	29.3	33.2

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「言語についての知識・理解・技能」「短答式」等の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「書く能力」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【国語A】 ◇「話すこと・聞くこと」領域の「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題」についてがんばりが見られます。
 ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題」に努力が必要です。
- 【国語B】 ◇「話すこと・聞くこと」領域の「話合いの参加者として、質問の意図を捉える問題」にがんばりが見られます。
 ◆「書くこと」領域(記述式)の「内容の中心を明確にして詳しく書く問題」や、「自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題」に努力が必要です。

小学校算数

A問題 平均正答率:62%(全国:63.5%) 平均無解答率:2.0%(全国:2.5%)

B問題 平均正答率:49%(全国:51.5%) 平均無解答率:7.4%(全国:7.9%)

分類・区分集計結果

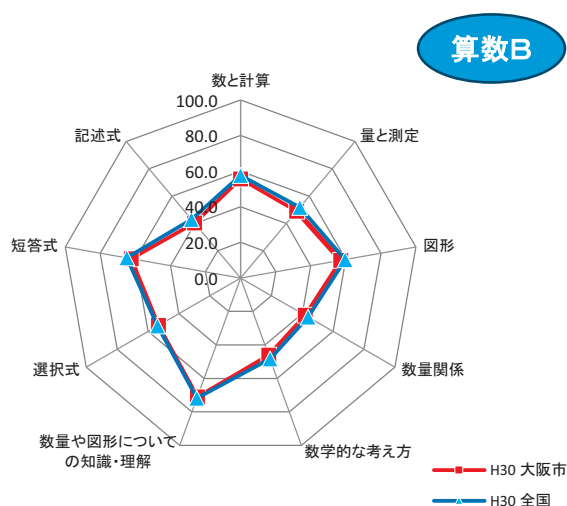
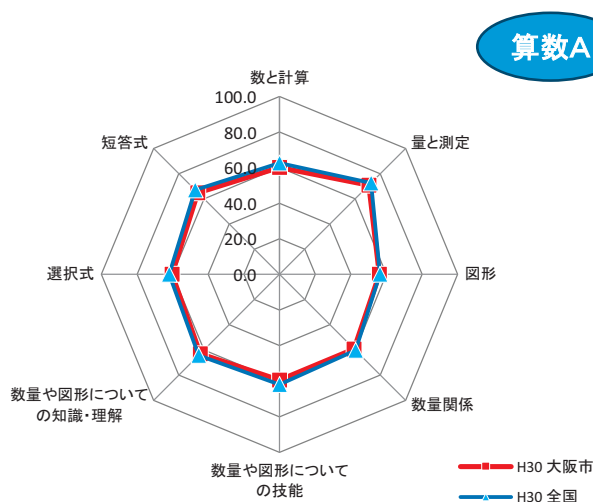
分類	区分	A問題(全14問)			B問題(全10問)		
		H30 対象 設問数	平均正答率(%)		H30 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H30 大阪市	H30 全国		H30 大阪市	H30 全国
学習指導要領の 領域	数と計算	5	60.0	62.3	6	55.6	58.4
	量と測定	4	70.9	72.7	4	49.0	52.4
	図形	3	56.0	56.9	2	57.0	59.9
	数量関係	5	59.2	60.1	5	41.9	45.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	0	—	—
	数学的な考え方	0	—	—	9	46.1	49.2
	数量や図形についての技能	5	59.4	63.0	0	—	—
	数量や図形についての知識・理解	9	63.0	63.8	1	71.0	71.7
問題形式	選択式	10	60.4	61.8	3	53.2	54.0
	短答式	4	64.9	67.8	2	62.4	66.6
	記述式	0	—	—	5	40.3	43.9

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「図形」等の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「数量関係」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

【算数A】 ◇「量と測定」領域の「 180° の角の大きさの問題」や「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合を比べる問題」にがんばりが見られます。

◆「数と計算」領域の「答えが $12 \div 0.8$ の式で求められるものを選ぶ問題」や「図形」領域の「円周率を求める式を選ぶ問題」に努力が必要です。

【算数B】 ◇「図形」領域の「合同な三角形で敷き詰められた模様の中から、条件に合う図形を見いだす問題」にがんばりが見られます。

◆「数量関係」領域の「メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題」などに努力が必要です。

中学校国語

A問題 平均正答率:74%(全国:76.1%) 平均無解答率:3.6%(全国:3.1%)

B問題 平均正答率:58%(全国:61.2%) 平均無解答率:4.1%(全国:3.0%)

分類・区分集計結果

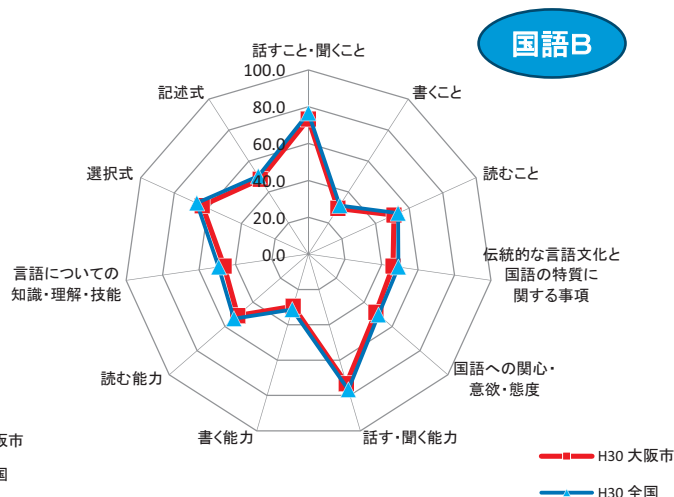
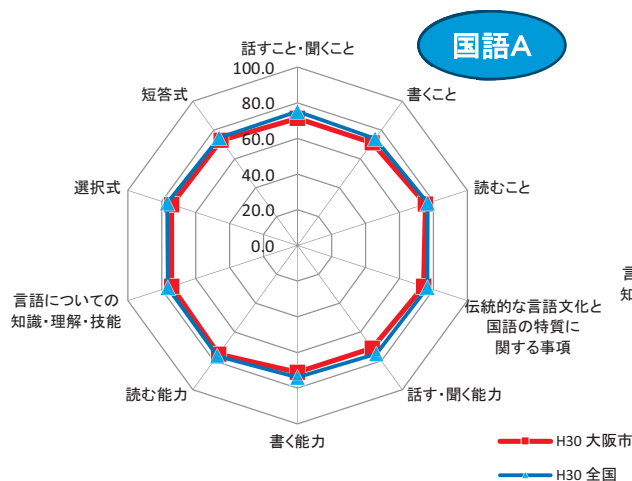
分類	区分	A問題(全32問)			B問題(全9問)		
		H30 対象 設問数	平均正答率(%)		H30 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H30 大阪市	H30 全国		H30 大阪市	H30 全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	71.2	75.2	3	73.3	76.6
	書くこと	4	71.1	73.9	2	29.5	31.3
	読むこと	4	75.3	76.7	6	50.9	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	74.3	76.5	1	46.3	49.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	3	48.3	50.3
	話す・聞く能力	3	71.2	75.2	3	73.3	76.6
	書く能力	4	71.1	73.9	2	29.5	31.3
	読む能力	4	75.3	76.7	6	50.9	53.5
	言語についての知識・理解・技能	21	74.3	76.5	1	46.3	49.2
	問題形式	21	74.2	76.8	6	63.4	66.7
問題形式	選択式	21	74.2	76.8	6	63.4	66.7
	短答式	11	72.9	74.7	0	—	—
	記述式	0	—	—	3	48.3	50.3

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「話す・聞く能力」「書く能力」等の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「書く能力」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【国語A】◇「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「漢字を読む問題」、「慣用句の意味を理解する問題」にがんばりが見られます。
- ◆「書くこと」領域の「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する問題」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題」に努力が必要です。
- 【国語B】◇「話すこと・聞くこと」領域の「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する問題」や「質問の意図を捉える問題」にがんばりが見られます。
- ◆「読むこと」「書くこと」領域(記述式)の「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題」、「読むこと」領域の「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える問題」に努力が必要です。

中学校数学

A問題 平均正答率:63%(全国:66.1%) 平均無解答率:3.7%(全国:3.3%)

B問題 平均正答率:44%(全国:46.9%) 平均無解答率:14.9%(全国:12.6%)

分類・区分集計結果

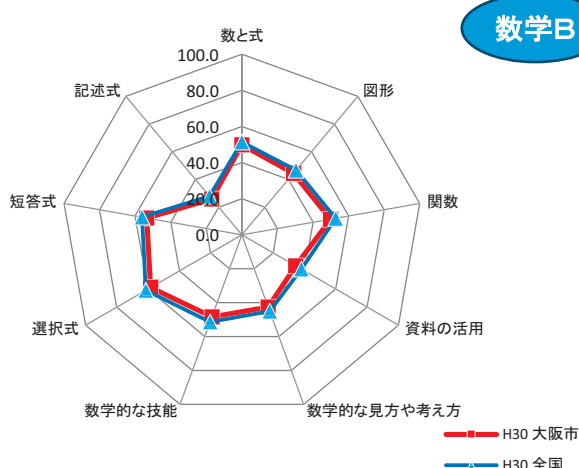
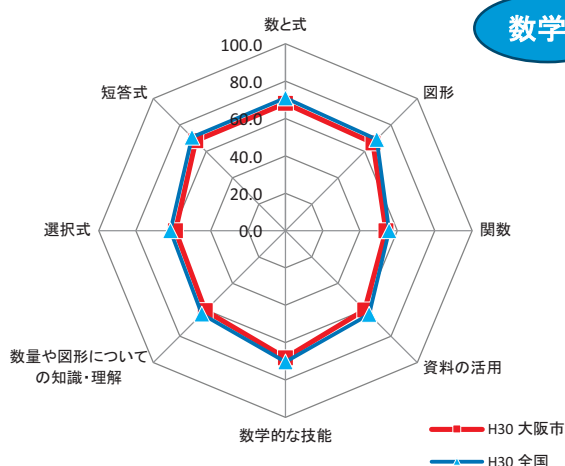
分類	区分	A問題(全36問)			B問題(全14問)		
		H30 対象 設問数	平均正答率(%)		H30 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H30 大阪市	H30 全国		H30 大阪市	H30 全国
学習指導要領の 領域	数と式	12	68.1	71.1	4	49.8	51.4
	図形	12	66.3	69.1	3	44.4	46.7
	関数	8	53.9	55.5	3	49.8	52.8
	資料の活用	4	60.1	63.5	4	34.5	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	0	—	—
	数学的な見方や考え方	0	—	—	10	42.6	45.1
	数学的な技能	14	68.1	70.4	4	48.4	51.3
	数量や図形についての知識・理解	22	60.6	63.3	0	—	—
問題形式	選択式	18	58.9	61.5	2	58.3	61.5
	短答式	18	68.0	70.7	7	53.4	56.2
	記述式	0	—	—	5	25.9	27.9

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「関数」「資料の活用」の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「資料の活用」「記述式」で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【数学A】◇「数と式」領域の「数直線上に示された負の整数を読み取ることができるかをみる問題」や「図形」領域の「見取図、投影図から空間図形を読み取ることができるかをみる問題」にがんばりが見られます。
- ◆「関数」領域の「一次関数の理解に関する問題」や「資料の活用」領域(選択式)の「最頻値や確率の意味を理解する問題」に努力が必要です。
- 【数学B】◇「数と式」領域の「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかをみる問題」や「関数」領域の「グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する問題」にがんばりが見られます。
- ◆「数と式」「関数」領域(記述式)の「数学的な表現を用いて説明する問題」や「資料の活用」領域の「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理できるかをみる問題」に努力が必要です。

小学校理科

平均正答率: 55% (全国: 60.3%) 平均無解答率: 1.2% (全国: 1.2%)

分類・区分集計結果

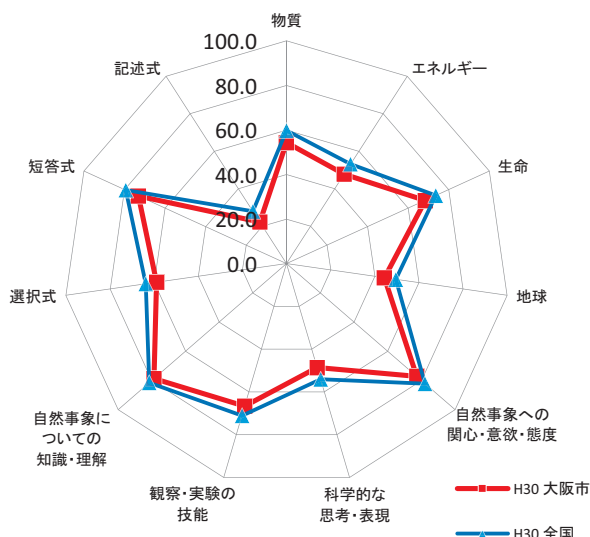
分類	区分	(全16問)	平均正答率(%)	
		H30 対象設問数	H30 大阪市	H30 全国
枠組み	主として「知識」に関する問題	3	75.0	78.0
	主として「活用」に関する問題	13	51.0	56.2
学習指導要領の 区分等	A区分	物質	54.4	59.8
		エネルギー	47.7	53.1
	B区分	生命	68.4	73.6
		地球	44.4	49.5
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		77.3	82.1
	科学的な思考・表現		48.6	54.1
	観察・実験の技能		66.7	71.1
	自然事象についての知識・理解		78.7	81.5
問題形式	選択式		59.0	63.8
	短答式		73.1	79.4
	記述式		22.3	28.0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■小学校理科では、「地球」「科学的な思考・表現」「記述式」の項目で低い値を示しています。

小学校理科



設問から見られる具体的な成果と課題

【小学校理科】

◇「B区分(地球)」の「流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉や概念の理解を問う問題」、「A区分(物質)」の「海水と水道水を区別するために複数の実験方法から得られた結果を分析して考察する問題」にがんばりが見られます。

◆「B区分(地球)」の「川の増水による土地の侵食について、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題」、「A区分(物質)」の「食塩水の蒸発について、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する問題」に努力が必要です。

中学校理科

平均正答率:63%(全国:66.1%) 平均無解答率:5.9%(全国:5.0%)

分類・区分集計結果

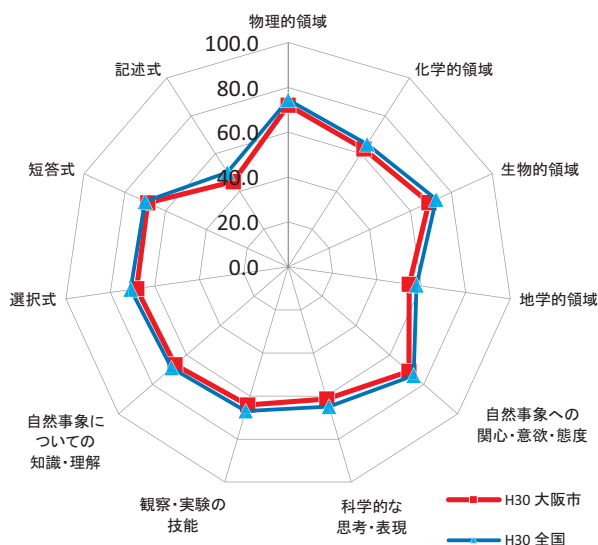
分類	区分	(全27問)	平均正答率(%)	
		H30 対象設問数	H30 大阪市	H30 全国
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	66.0	67.9
	主として「活用」に関する問題	16	61.0	64.9
学習指導要領の 分野等	第1 分野	物理的領域	72.1	74.4
		化学的領域	62.4	65.0
	第2 分野	生物的領域	68.9	72.5
		地学的領域	54.5	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		71.2	74.0
	科学的な思考・表現		61.4	64.9
	観察・実験の技能		64.2	67.0
	自然事象についての知識・理解		66.7	68.7
問題形式	選択式		68.2	70.9
	短答式		68.7	70.2
	記述式		45.2	50.1

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■中学校理科では、「地学的領域」「記述式」の項目で低い値を示しています。

中学校理科



設問から見られる具体的な成果と課題

【中学校理科】

◇「物理的領域」の「豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘する問題」、「物理的領域」「地学的領域」の「初期微動継続時間の長さ」と震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用する問題」にがんばりが見られます。

◆「地学的領域」の「風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する問題」、「地学的領域」の「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題」に努力が必要です。